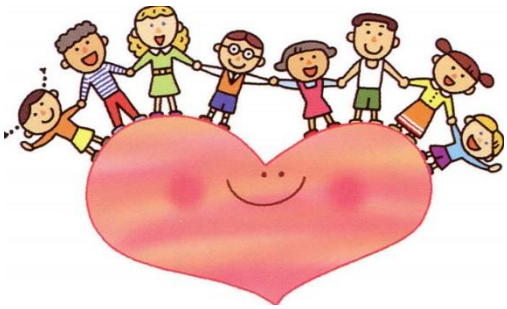
いきいき生っ子

平戸市立生月小学校
学校だより
令和２年
１２月２３日文責：平松紀子

◆人権について　～知ること、学ぶこと、気づくこと～

１２月４日～１０日まで、人権週間でした。生月小学校でも４日（金）に人権集会が行われました。人権標語の紹介があったり、全校での楽しい遊びが計画されたりしました。学級でも子供と向き合う時間を作り、面談を行いました。子供についての情報交換も行ったところです。

さて、先日、生月中央公民館で人権教育講座がありました。講師は、今川亮生さん、神保裕行さんで、その日の学びのテーマが「　**『ふつう』『あたりまえ』**って何だろう」ということでした



日常の会話の中で、「ふつうさぁ～、こうするたい。」などと言ってつかう「ふつう」、「そがんするとが、あたりまえたい」などとつかう「あたりまえ」のことです。４つの状況が示され、班で考えました。一つ紹介すると、次のような状況の時です。

何人かで雑談をしていた時、ある人が同性愛者に差別的なことを言いました。それに対して、Ａさんが「そういう言い方はよくないと思う。性のあり方はさまざまなんだから。」と言ったところ、「もしかして、あなたも同性愛者なの？」と聞かれたので、Ａさんは「ちがうよ、私は**ふつう**やけど。」と答えました。

皆さん、どうでしょうか。何を感じられましたか。講座では、次のような意見が出ました。

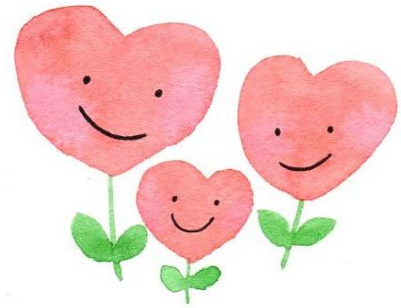
○この言葉自体が、差別用語ではないか。
○何気なく使っている「ふつう」であるが、「ふつう」を使うことで線を引くことになっているのではないか。
○「ふつうさぁ～。」っていうのは、上から目線で否定しているときに使うのではないか。
○「ふつう」を使うことで、「ふつうじゃない人」との距離を置いているのではないか。
○「ふつう」とは、大多数の意見、はずされたくないというのが、無意識にあるのではないか。

講師の先生が、「少数派は多数派を意識しないと生きていけません。特権を持った人はそれさえ気づかない。立場の弱い人にとって一番つらいことは、無関心です。知ること、学ぶことが大事です。」とおっしゃいました。その時、私は、長崎県ＰＴＡ新聞（令和２年１１月３０日）に掲載されていた“「ふつう」って何だろう”という記事（県人権・同和対策課）を思い出しました。

私たちが、普段「みんなにとってのふつう」と考えているものは、多くの人にとってのふつうではあってもすべての人を含む枠組みにはなっていないことが多いのです。・・・・・私たちは、自分とは違う様々な人・もの・ことに囲まれて生活しています。それは、時として、自分がもつ「ふつうの○○」に当てはまらないものです。多様性の時代、自分のもつ「ふつう」の外にある違いを知り、受け入れ、共存することが求められます。一人ひとりのもつ「らしさ」が尊重され、違いが調和した社会をつくるチャンスともいえるのではないでしょうか。　（一部抜粋）

今までの自分の考え方や感じ方を振り返るとても良い時間となりました。また、多様性の中で生きていく子供たちが、人権を正しく理解できるようにしなければならないなあと思いました。

◆劇団どら「いのちの花」公演



農業高校の高校生たちが繰り広げるお話です。前半はじめは、それぞれの夢をもって農業高校に入学した生徒たちが、担任の先生に「長い長い命の授業の始まりだ。」と言われ、授業の様子がテンポよく流れていきました。子牛が生まれたり、東日本大震災のことがあったり・・・・・。そして、後半は、保健所に様々な理由で集められた７０％あまりの犬やネコなどが、毒ガスによって殺処分されることを題材にしたものでした。殺処分された犬やネコたちは骨になって捨てられる、そのことが生徒たちの心を大きく動かします。生徒たちは、骨を小さく砕いて肥料にし、種を植え、花を咲かせました。捨てられるいのちではなく、花が咲いたことでつながったのです。最後は、担任の先生が初めに言った「長い長い命の授業の始まり」という言葉で終わりました。子供たちは、シーンとした中で、一生懸命に観ていました。書いた感想を見てみると、「かわいそうだけど、花が咲いてよかった」「自分の命を大切にしたい。」「犬を飼ったら、責任をもって育てたい。」など、それぞれ命について考えていました。

私は、農業高校の先生が、「長い長い命の授業の始まり」といったのは、子供たちに、「これから生きていく皆さんには、命の授業（命を大切にすることを考えること）をずっと考えていってほしい。今日のこの劇を見て感じたことを、命の授業のはじめの一歩にしてほしい。」と言っているように聞こえました。

○命の大切さがよくわかりました。犬やネコの命も人間と同じで、大事なんだなあと思いました。骨をくだいて、肥料にして、花を育てて、命をむだにしないですごかったです。私も自分の命だけでなく、他人や動物の命も大切にしていきたいです。　　６年

◆竹とんぼ飛ばしで、大はしゃぎ！

「体験工房　竹とんぼ」の杉山安信さんが学校を訪問されて、全校児童に手作りの竹とんぼをプレゼントしてくださいました。２年生は、生活科の昔遊びの時間だったので、さっそく杉山さんと一緒に竹とんぼを飛ばして遊んでいました。なかなか上手に飛ばすことができず、杉山さんが上手に飛ばすのを見て、ホォ～と感心していました。そして、自分も遠くへ飛ばすぞと意気込み、「えい！」と何度も飛ばすなど、大はしゃぎの時間となりました。

私が小さいころよく遊んでいたおもちゃは、今の子供たちにとっては珍しくもあり、目新しくもあるようです。今、伝統文化を学ぶことが、学習内容に入ってきていますので、子供たちには、昔遊びを通して、人と関わり、楽しいひと時を過ごしてほしいと思います。もうすぐ冬休みです。家にこもっているのではなく、竹とんぼや昔遊びを家族でやってみませんか。

◆ベストブック賞

読書は、心の栄養と言われます。生月小学校では、朝読書や親子読書の奨励を行っています。子供たちにたくさんの本にであってほしいと思っています。

２学期は、読書の秋にちなんで図書委員会が集会や催し物をしてくれました。また、各学年読書冊数が決まっていて、読破した子供達がたくさんいました。その中でも、次の６名は、様々なジャンルを多く読み、ベストブック賞に輝いた子供達です。

◆表彰

○平戸市美術展覧会（絵画の部）

入選　１年　　１名
　　４年　　２名
　　５年　　１名
　　６年　　１名

○平戸市美術展覧会（書の部）

入選　３年　　１名

○第66回「子ども県展」（版画の部）

入選　１年　　１名
　　４年　　１名
　　６年　　２名

○第66回「子ども県展」（絵画の部）

入選　４年　　３名

○西日本読書感想画コンクール（指定図　）

最優秀１年　　２名
　　３年　　３名
　　４年　　１名

○西日本読書感想画コンクール（自由　）

最優秀５年　　１名

○西日本読書感想画コンクール（指定図　）

優秀１年　　２名
　　３年　　２名
　　４年　　３名

○西日本読書感想文コンクール

最優秀１年　　１名

○第16回剛柔会長崎県空手道選手権大会

小学４年生女子組手　　準優勝　４年　女子
小学３・４年生女子形　優勝　　４年　女子

○平戸市剣道協会冬季錬成大会

小学生団体の部　優勝　生月剣道スポーツ少年団

◆来年もよろしくお願いします

今年は、新型コロナウイルス感染予防のため、臨時休業となり何日も休みが続くという事態となりました。教師生活３８年の中で、初めてのことです。先生方とは、どのように対応していくか、毎日のように、共通理解するための話し合いを行いました。子供や保護者の皆様にとっても初めてのことで、不安な日々であったのではないでしょうか。しかし、「コロナだからできない」ではなく、「コロナでもできることをしよう」ということで、２学期の大きな行事、運動会も無事に終えることができました。また、学年に応じての体験活動も仕組むことができました。こんな時だからこそ、保護者の皆様や地域の皆様のご協力、御支援が大変ありがたく感じました。本当にありがとうございました。

今年は、皆様に支えられながら、コツコツと働いてまいりました。教職員一同、大変お世話になりました。

来年も、教職員一同、一歩一歩着実に物事を進めていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

新型コロナやインフルエンザのことが気になりますが、不要不急の外出を避け、三密を避けて乗り切りましょう。皆様、どうぞよいお年をお迎えください！

◆行事予定

８日　始業式、集団下校
１２日　身体測定（５・６年）
１３日　身体測定（３・４年）
１４日　身体測定（１・２年）
　　書初め大会
１７日　家庭の日（親子で読書）
１８日　書初め展　～22 まで
１９日　ＰＴＡメディア研修会
２２日　授業参観・懇談、
　　学校保健委員会
２７日　山田小学校との交流（６年）
２９日　生月中学校入学説明会（６年）

年間計画では、授業参観が１９日となっていました。２２日に変わっておりますので、お気を付けください。

○ＰＴＡ主催により、「メディアとの上手な付き合い方」ということで、講師にＫＤＤＩの方をお迎えし、メディアの研修会があります。**ぜひ、ご参加ください。**

１　日時　１月１９日（火）
　　子供対象　：１８：００～
　　保護者対象：１８：５０～
２　場所　中央公民館